

全国から応援に来ています!

福島県各地に、全国から様々な方達が応援に来てくれています。そんな頼れる皆さんからのメッセージをお伝えします。



社会福祉法人 全国社会福祉協議会
佐甲 学さん

週2回のペースでお邪魔するようになり1カ月余り…。最近、福島県社協を「うちの社協」と言っていることに気づきます。全社協では「うちの社協(福島県社協)の現状に即したうち(全社協)の支援は…」など意味不明な報告をしてしまいます。



社会福祉法人 中央共同募金会
阿部 陽一郎さん

先日県災害VCを久しぶりに訪ね心底嬉しかったなあ。敷居が低く気持ちよく迎えてくれる雰囲気はスタッフの努力の賜物だと改めて実感。私たちがVC同士諸氏と思いは同じ。災害VCへの県共募による準備金支援を支えること。そして募金の配分を通じて、地域に「含み資産」を増やしていくお手伝いをしていきたいですね。

「ボランティアコーディネーター」ってどんな人?

今回の災害で、新聞やテレビ等にもよく登場するようになった「ボランティアコーディネーター」という言葉。あなたは「ボランティアコーディネーター」って、どういう人か、何をやる人かご存知ですか?

ボランティアのお世話役?

ボランティアを仕切って、活動を割り振る人?

どちらも、間違いです!!

ボランティアコーディネーターとは、ボランティアのお世話役でも、仕切る人でもありません。ボランティアコーディネーターは、災害時には、「被災地などに作られる災害ボランティアセンターや生活拠点などで、被災者の思いや要望、困りごとなどを丁寧に聴き取り、本当に必要としているニーズを掘り起こし、ボランティア活動希望者に正確に伝え、被災者支援の活動に結びつける役割」を果たします。

(日本ボランティアコーディネーター協会)

<http://www.jvca2001.org/modules/pico/info/whatsvco.html>より)

今回の被災者に限らず、「ボランティアに支援を求める」という経験がある人はほとんどいないでしょう。したがって、被災者からニーズがあがってくるのをただ待っているだけではだめで、チラシ配布、声かけ、支援活動の例示などの工夫を通して、丁寧にニーズの掘り起こしをします。そして、ニーズをもとに具体的なボランティア活動のプログラムを作り出していきます。

一方、「ボランティア活動がしたい、何か支援をしたい」という人の中で、被災地の詳細な様子や求められる活動を事前に把握できる人は少ないため、的確な情報提供やオリエンテーションが大変重要になります。とくに、災害時のボランティア活動は、さまざまな「危険」と隣り合わせです。前もってリスクを把握あるいは予測し、それを回避するための取り組みを行います。

さらに、活動後のボランティアの「気づき」や「学び」を大切にします。そこから、新たな企画が生まれることもあるのです。

このように、ボランティアコーディネーターは、ボランティアが被災者に寄り添った活動を展開していけるように、被災者・被災地とボランティア、関係者をつないでいきます。

いつもご愛読、ご声援ありがとうございます!

本紙「はあふる ふくしま別冊 福島県災害ボランティアセンター通信」が創刊されたのは、4月26日。発災後、福島と言えば「原発事故」の報道ばかり。避難所の様子や被災者、ボランティアの動向がわからない、という内外からの声に応じて、「では、福島の中から発信していこう!」と、本紙の発行が企画されました。

それから、2カ月あまり。毎週月曜日の発行をまもり、今号で12号となりました。

当初の計画では、発行は12号まででした。しかし、これからも復興へ向けて、被災された方々とボランティアによるさまざまな取り組みが展開されていきます。ぜひ、それらの取り組みから学びたい、そしてより多くの方にお知らせしたい、との思いから、第13号以降も発行を継続していく運びとなりました。

今後の発行ペースや紙面構成等につきましては、編集メンバーの話し合いにより決めていくこととなります。第13号がお手元に届きますまで、少々お待ちいただければと思います。

これまで、早く取材に協力して下さった皆様、配布に尽力して下さった方々、そして丁寧に読んで下さったすべての方々、本当にありがとうございます。

これからもご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

2011年7月7日

福島県災害ボランティアセンター

編集協力: NPO法人うつくしまランチ、NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会

被災をされた方へ

皆さんが安心して応急仮設住宅での生活をおくれるよう支援するスタッフとして、社会福祉協議会に生活支援相談員(せいかつしえんそうだんいん)が157人配属されます。

生活支援相談員とはどんな役割なのでしょう。

こんにちは、生活支援相談員です!!



仮の住まいと呼ぶには2年という入居期間は長いですが、この2年間で前向きで快適な暮らしになるよう皆様のお手伝いをしていきます。生活支援相談員を見かけたらぜひ声をかけてください。

私たちの役割は…



① 地域支援

応急仮設住宅に入居された皆さんのご近所づきあいや助け合いをサポートします。集会室や談話室を利用したサロンの運営なども役割のひとつです。

新しい友達ができるチャンスです。ぜひ参加してくださいね。

② 個別支援

東日本大震災で被災した皆さんの福祉課題や生活課題を把握し、福祉サービスや生活支援サービスを利用することができるよう、相談や各種調整をおこなう職員です。

行政機関との連携や民間事業者との調整など自分だけでは大変なことを皆さんと一緒に調整していきます。

平常時には、ボランティアセンターや市民活動センターなどの中間支援組織、またNPO/NGO、福祉施設、病院、社会教育施設などでボランティアコーディネーション業務に携わっています。

日本では「専門職」としての位置づけがまだ不十分ですが、市民が社会的な活動に参加することを促進し支える「専門スタッフ」と言えます。

編集後記

東北は梅雨入りしたばかりなのに…盆地の福島は特に蒸し暑い。

福島県に応援に駆けつけている社協職員の方々やボランティアの方々は日々この蒸し暑さのなかで活動されています。感謝の一言です。一言、福島PRです。これからは桃の最盛期を迎えます。是非、ふくしまの果物も堪能ください。(佐藤)



赤い羽根共同募金

がんばろう、日本。がんばろう、東北。

がんばろう、福島。

最新情報はホームページでご覧ください!

<http://www.pref-f-svc.org/>

